

グラン・トリノ (Gran Torino)

観賞日 2022年2月28日

【概要】

制作 2008年 アメリカ 上映時間 117分

監督 クリント・イーストウッド

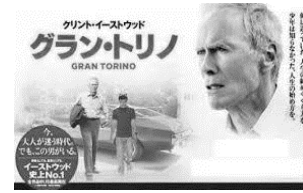
脚本 ニック・シェンク

撮影 トム・スターン

出演 クリント・イーストウッド (ウォルト・コワルスキー)

クリストファー・カーリー (ヤノヴィッチ神父)、ビー・ヴァン (タオ・ロー)、

アーニー・ハー (スー・ロー)、ブライアン・ハイリー (ミッチ・コワルスキー)



【あらすじ】

年をとってますます頑迷固陋になり、子供や孫からも煙たがれる存在のウォルト・コワルスキー。彼はポーランド系移民で朝鮮戦争の生残り。50年間フォードの組立工をしてきたが現在は引退している。その間、町はさびれて周囲はほとんどアジア系の住民になり治安が悪化している。心を閉ざしたウォルトの唯一の自慢が愛車のグラン・トリノだ。ある晩、ウォルトは隣家のモン族の少年タオが不良たちに絡まれているところを助ける。また別の日にやはり不良たちに捕まっていたタオの姉スーを助ける。スーから感謝され食事の誘いを受けたウォルトは思い切って出かけてみる。すると、自分たちのことしか考えていない子供や孫よりもモン族の方がずっとまともなことに気付く。久し振りに心の安らぎを得たウォルト。ウォルトとモン族家族との交流が始まる。ウォルトがモン族の中で最も気に入ったのがタオ。タオを一人前の男にするために親身になるウォルト。やがて、不良たちは隣家に発砲し、スーに襲いかかる。死期が近いことを自覚していたウォルトはタオを護るため綿密な計画を立てて単身、不良たちが住む家を訪れ対決

を挑むが・・・。

時代遅れの男ウォルト・コワルスキーはクリント・イーストウッドのはまり役。

【解説】

■ポイント

●デトロイト

- ・ミシガン州の都市。人口約70万人(2012年現在)
- ・1903年にヘンリー・フォードが自動車工場を建設、全米一の自動車工業都市として発展。その後、GM、クライスラーが誕生、最盛期(1950年)の人口は180万人を超えた。
- ・1970年代から日本車等の台頭により自動車産業が競争力を失い大量解雇が始まり治安が悪化。
- ・今世紀に入り全米の他都市に比べ経済状況は回復、トランプ政権の経済政策により自動車産業の雇用も回復しつつある。

●モン族

- ・ラオスのモン族はインドシナ戦争、ベトナム戦争でフランス軍、アメリカ軍とともに戦った。しかし、ベトナム戦争でアメリカが敗北すると見捨てられて行き場を失い、ベトナム軍に返り討ちにあいタイに政治亡命した。
- ・この難民が1970年代にアメリカに移住した。

■見どころ

- 朝鮮戦争のトラウマもあり、頑固で孤独な男がようやく見つけた心の安らぎと鎮魂
- 遅れて来た移民ウォルトの親しい仲間はポーランド系、アイルランド系、イタリア系等、アメリカ社会の底辺を形成する遅れてきた移民
- ヴィンテージ・カー、グラン・トリノは古き良き時代のアメリカの象徴